

社会的弱者の観光を通じての自立と自律

主催：「貧困の文化と観光」研究会，後援：立命館大学人文科学研究所，立命館大学文学部

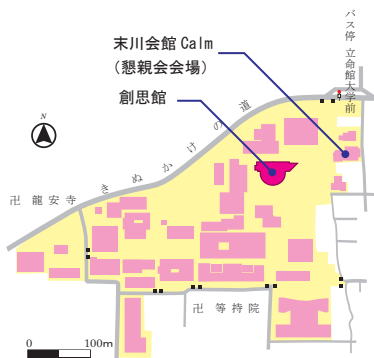


ごあいさつ

観光は、一時的に家を出て、非日常的な空間へ移動してなにか新しい刺激を経験し、再び家に戻るまでの一連の行為を指すとすると、私たち現代人の生活にとってほぼ不可欠な現象にまでなっています。世界観光機関（WTO）によれば、2007年には、他国を訪れる観光客数が9億人近くにまでなっています。この観光客の行き先は大きく分けて、ヨーロッパが最も多く、そしてアジア太平洋地域、南北アメリカ、中東、アフリカが続きます。観光のグローバル化がますます進行し、近代的な観光客のまなざしは地球上の津々浦々まで浸透しつつあるということになります。

観光客が地球の隅々まで浸透する過程で、各地のエスニック・マイノリティ、極貧者、低位カースト、貧しい女性などの社会的弱者がこの過程にさまざまな形で巻き込まれ、ある時は底辺の労働者として、ある時は「見世物」として、またある時は観光地開発の邪魔者として、観光の従者的な位置に置かれてきました。そして、このような人たちのために優しい、もう一つの観光（持続的な観光）が先進国主導の形で提唱され、途上国社会にまで伝播するようになってきました。しかしながら、多くの場合、その理念と実践の間には大きな齟齬が見られ、あくまで社会的弱者の多くが「見られる対象」であることにあまり大きな変化はなく、不平等を被りつつある場合も多いようです。NGOや各種支援機関の開発援助を得ても、社会的弱者の集団の中には支援への「依存症」的な症状に陥ってきたものもあるようです。

このような社会的弱者が、観光化を逆手にとって、自立化・自律化の途を進み、かつ喪失してきたプライドや「伝統」を回復することはできるのでしょうか。今回のシンポジウムは、世界の多様な観光開発と社会的弱者の関係を取り上げ、この人々による観光化を逆手にとった社会的弱者の生存戦略のあり方と、その意味について検討します。世界各地から第一線の研究者をお招きして行うシンポジウムで、すべての報告に同時通訳が付きまします。観光や貧困の問題に興味をお持ちの方ならどなたでもご参加いただけます（入場無料・事前申込不要）ので、皆様お誘い合わせの上、お越しくださいますようお願い申し上げます。



衣笠キャンパスへのアクセス

◎ JR・近鉄京都駅より
市バス50/快速205にて(約35分)「立命館大学前(終点)」下車
市バス205にて約35分、「衣笠校前」下車、徒歩10分
JRバスにて約30分、「立命館大学前」下車

日時：11月1日(土)，10：00～18：30
11月2日(日)，10：00～15：00

会場：立命館大学衣笠キャンパス・創思館1F
カンファレンスホール

使用言語：日本語，英語（同時通訳付き）

社会的弱者の観光を通じての自立と自律

立命館大学

創思館カンファレンスホール

November 1-2, 2008

PROGRAM

(それぞれの報告は20～25分程度、報告後に5～10分程度の質疑応答の時間を設けます。また、1日目の終了後には会場の隣にあります末川会館のレストラン Calm で簡単な懇親会を企画しております。ふるってご参加ください。)

1日目：11月1日(土)

2日目：11月2日(日)

◎ 趣旨説明：江口信清(立命館大学) 10:00～10:15

◎ 第4セッション 10:00～13:00
『ツーリズムに関わる諸問題』

◎ 第1セッション 10:15～11:45
『エコツーリズムとコミュニティ・ベースド・ツーリズムⅠ』

- 001: ティブスング・エ・ヴァヤヤナ, ペオンシ(国立台湾師範大学)「台湾のツォ族村落におけるエコツーリズム」
002: デヴィッド・ピーティ(立命館大学)「ペルーとボリビアにおけるコミュニティ・ベースド・エコツーリズム」

◎ 昼食 11:45～12:45

◎ 第2セッション 12:45～15:00
『エコツーリズムとコミュニティ・ベースド・ツーリズムⅡ』

- 003: ジェラルダス・ドミニクス・カタリナ・ファン・ヴェールト(オランダ・ブレダ大学)「エクアドル・ルナ・タパリにおけるコミュニティ・ツーリズム」
004: クラウディア・ノッケ(カナダ・レスブリッジ大学)「北部カナダの異人、現地人、そして土地:生き方を持続して」
005: 古村 学(龍谷大学)「島社会におけるエコツーリズム」

◎ 第3セッション 15:15～17:45
『マレーシアのツーリズム』

- 006: 藤巻正己(立命館大学)「マレーシアにおける貧困問題の地域的・民族集団的多様性に関する研究」と社会的弱者およびツーリズム」
007: ノリザン・ビン・モハマト・ノール(マレーシア科学大学)「マレーシア・パハン州・キャメロン高原におけるエコツーリズムの開発:参加とオランアスリへの影響」
008: 田和正孝(関西学院大学)「マレー半島における漁村でのツーリズムの問題」
009: 江口信清(立命館大学)「ツーリズム:マレーシア・マラッカにおけるポルトガル人にとっての生存の鍵」

◎ ディスカッション 17:45～18:25

◎ 懇親会(末川会館 Calm にて) 18:30～20:00

010: 四本幸夫(立命館大学)「観光化と近代化の影響:フィリピン・イフガオ州バナウエの世界遺産の棚田とイフガオ族の農民を事例として」

011: 石井香世子(名古屋商科大学)「誰が山地民なのか:エスニック・マイノリティはエスニック・ツーリズムに参加して「よい生活」を得ることができるのか」

012: 村瀬 智(大手前大学)「ベンガルのバウルの適応戦略とツーリスト・スポットとしてのブルプール・サティネケタン」

013: 池本幸生(東京大学東洋文化研究所)「人間開発とツーリズムの役割:ケイパビリティ・アプローチの観点から」

◎ 昼食 13:00～14:00

◎ コメント: 山本勇次(大阪国際大学) 14:00～14:20

◎ ディスカッション 14:20～15:00

* 日本語・英語の抄録を配布します。また、すべての報告・発言(会場からの質問等を含む)に同時通訳が付きまます。

* 抄録は随時企画のホームページにアップしていきます。また、これまでの「貧困の文化と観光」研究会の活動については、立命館大学人文科学研究所のホームページで閲覧できます

(http://www.ritsumeit.ac.jp/acd/re/k-rsc/hss/hss_index.htm)。

* 入場無料、事前申し込み不要です。

問合せ先

◎立命館大学人文社会リサーチオフィス
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

tel: 075-465-8225 (担当: 中島)

Mail: jinbun@st.ritsumeit.ac.jp

ホームページ:

http://www.ritsumeit.ac.jp/acd/re/k-rs/c/hss/symposium/kouen_081103_j.html